キャリア教育の推進に関する研究

田名中学校区(田名中学校、田名小学校、田名北小学校)

「自ら考え行動することができる児童生徒」「人の気持ちを理解し、助け合うことのできる児童生徒」を育む教育活動の展開

１　研究主題について

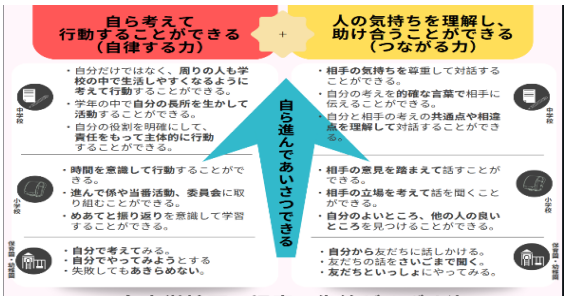
中学校区でめざす児童生徒像を「自ら考え行動することができる児童生徒」「人の気持ちを理解し、助け合うことのできる児童生徒」とし、キャリア教育の視点を意識した教育活動に取り組んでいます。田名中学校区では、児童生徒の実態や中学校区として育成したい力等を分析・整理することを通して、キャリア教育により育みたい４つの力のうち、特に「自律する力」「つながる力」に重点を置き、本主題を設定しています。

２　研究内容

本研究は、田名中学校区（田名小学校、田名北小学校、田名中学校）において、令和６年度から８年度にかけて推進されている実践研究です。

社会環境が急激に変化する中で、児童生徒の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力を育む「キャリア教育」の重要性が高まっています。しかし、校種ごとの取組が分断されれば、児童生徒の成長についての連続性を踏まえた指導を行うことが難しくなり、指導の効果が十分に発揮されない懸念があります。

そこで、既存の幼保小中連携・小中高連携や学校運営協議会等の枠組みを活用し、図１のように、中学校区全体で「めざす児童生徒像」と「育みたい力」、「めざす具体の姿」を明確に示しました。そうすることにより、児童生徒・保護者・地域・教職員とゴール像を共有し、義務教育９年間、さらには幼保や高校までを見通した「縦の接続」と、地域社会と協働する「横の連携」を強化することにしました。



［図１］「めざす児童生徒像」と「育みたい力」

３　研究方法

研究の推進にあたっては、キャリア教育の「視点」「計画」「実践」の３つを中学校区全体で「そろえる」ことを重視しています。具体的な方法として、次の３点が挙げられます。

① 推進体制の整備

「小中高連携推進協議会小委員会」や「中学校区キャリア教育推進小委員会」を定期的に開催し、各校の担当者が方針をすり合わせる場を設けています。また、小中一貫の日や校内研究の公開授業日においては、積極的に授業を公開しキャリア教育の視点で研究協議を行ったり、講師を招聘して専門的な見地から研究の価値付けをしていただいたりするなど、学校間での共通理解と意識の統一を図っています。

②小中一貫性のある「全体計画」の作成

各校で作成した「キャリア教育全体計画」を中学校区で共有するにとどまらず、小中一貫性のあるものにするため、「中学校区キャリア教育推進小委員会」ですり合わせて改善を図りました。実践の検証を行い、PDCA サイクルによる実用性ある運用をめざしています。

③情報発信の強化

「幼保小中連携情報交換会」などを通じて、校種を超えた情報の共有を行うとともに、「田名中学校区キャリア教育通信」(図２)を発行することにより地域や家庭に対してもその意図を広く発信し、横の連携を図っています。

田名中学校区　令和6年12月24日発行
キャリア教育通信 第12号
発行：田名中学校区小中高連携教育推進協議会
キャリアの視点で学期をふりかえってみると
【１年】
キャリアパスポートをとおして、自分の成長に気づく
【２年】
2年：「一歩」から始まる4つの力
授業中のつぶやきに“キャリアの視点”をひめませて
授業後の自分をキャリアの視点で意識させて

［図２］　キャリア教育通信

４　本研究における実践

共通の基盤が整った今年度は、具体的な授業実践と交流活動をより活発化させました。

①授業実践・授業研究

キャリア教育の視点を踏まえた授業づくりの具体として、教科のねらいを第一に置きながら、キャリア教育の４つの力のうち、授業で育みたい力とその場面について指導案に示す、授業の振り返り場面において育みたいキャリア教育の力に即した価値付けをするなど、キャリア教育で育みたい力を意識した具体的な授業づくりについて実践を重ねてきました。

②校種間交流

児童会と生徒会による合同会議やあいさつ運動を実施し、児童生徒が主体的に関わる場面を創出しました。また、中学生が小学校を訪れて部活動紹介を行ったり、中学校教員による出前授業を行ったりすることで、小学生の中学校生活への不安解消と期待感の醸成を図っています。さらに、高校の授業公開やラウンジ展への参加、幼保との交流会など、義務教育の枠を超えた連携も進めています。

③地域連携

学校運営協議会と密接に連携し、ゲストティーチャーを招いた授業や職場体験学習など、地域社会全体を学びの場とする活動を展開しています。これらの活動の様子は「キャリア教育通信」等を通じて地域へ発信し、保護者や地域住民の理解と参画を促しています。

５　成果と課題

これまでの取組の成果は、全国学力・学習状況調査等の質問紙調査結果(特に自己肯定感に関わる部分)に明確に表れました。

【全国学力･学習状況調査質問紙項目より】
自己肯定感・自己と周囲との関わりに関する項目でポイント増

○「自分にはよいところがある」
→小中ともに増加している
（田名中：R5 78.8% → R7 86.4% ）
○「人が困っている時には進んで助けていますか」
（田名北小：R5　89.6% → R7 95.0%）
○「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」
（田名小：R5 71.6% → R7 82.1% ）

今後も、日常の教科等の授業づくりにおいて、キャリア教育の視点による授業実践のさらなる質的向上を図るとともに、保護者を含めた地域全体とより一層協働し、家庭･地域･学校が一体となって児童生徒を育む教育活動を展開していく必要があると考えています。

６　支援教育の視点

本研究で掲げた「自律する力」と「つながる力」の育成は、支援教育において重要視される「自立と社会参加」の理念と重なります。特に、「自分のよさや長所を生かす」という視点は自己肯定感を高める上で極めて重要です。

また、「人の気持ちを理解し、助け合う」姿を中学校区でめざすということは、多様な他者を受け入れ、違いを認め合うインクルーシブな学校風土の醸成につながります。困っている友人に自然と手を差し伸べる関係性が構築され、社会の中で共に生きていくための基礎的な力を育む土台となっていくと考えます。